

## ヨーロッパの友党との交流を進めるための意見書

日本社会党中央本部 中央執行委員長 土井 たか子 殿

党の前進に向けた連日の御健闘に心より敬意を表します。

早速ではありますが、用件を端的に申し上げてお願いの儀とします。

私共は、「日本社会党ヨーロッパ視察団」として、4月24日から5月6日までの13日間、ドイツ、フランス、イタリアを訪問し、それぞれ、友党であるドイツ社会民主党、フランス社会党、イタリア社会党と交流して参りました。

現在、これらの交流・学習の成果を「視察報告」及「感想集」としてまとめているところですが、今回の交流を通して、切実に感じ入るところがあり、早急に視察団として、党中央本部に我々の意見を提言しようということになりました。

よろしく御検討を頂ければ幸いです。

交流の時間が十分ではありませんでしたが、本当に有益な訪問でしたし、心暖まる歓迎を受けました。

社会主義運動、社会民主主義運動の先達として、又、先進資本主義国における社会変革を闘っている同志として、いや、それだけではなく、人類的危機の時代を共に生きている同じ人間として、学ぶべきことは余りに多く、そして、意見交流することが如何に緊急に必要な感じました。

日本社会党として、ヨーロッパの友党との交流を企画したのは、最近では、1981年7月の勝間田清一団長、1982年3月の飛鳥田一雄団長、1984年11月の多賀谷真稔団長、の三回であり、「新宣言」採択後は全く交流が無いとのことでした。

今回の視察団は、全国の党員が自主的に参加したものであり、多額の経費も参加者の負担に委ねられておりますが、しかし、党の再生と発展に寄与せんと情熱を燃やして参加したもので、参加者一同は十分に満足できる交流であり、意義ある取組みだったと確信しています。

お願いの儀は、今後、世界は国際的交流をますます必要とし、日本はその責任と地位を問われていくと思いますが、党中央本部においては、特に、社会主義インターに加盟するヨーロッパの友党との交流を系統的・継続的に推進して欲しいと切望するものです。

政策や組織や運動面で悩みが共通する課題が多く、そして、協力して解決に当たらなければならない国際的課題も多々あり、交流の意義と成果は果てしなくあります。

又、違いを知ることで自省することもできました。

中央本部への訪問だけでなく、地域の支部や地方本部との交流をしましたが、これは大変意義深いものでした。

女性の社会的進出は世界的傾向であり、この交流の緊急な必要性も感じました。青年層の脱政党性化現象も世界的に起きており、青年の交流も意味あると思います。

「新宣言」作成に向けて我が党は、綱領的論議を展開しましたが、その後はこうした論議は途絶えたままで、「現代社会主義研究」も発行中止になったままです。

まだまだ、論議を尽くさなければならないことが多くあり、政策・組織・運動論の充実も緊急の課題です。又、新たな情況や課題も生れており、理論学習活動の必要性は、一層高まっていると考えます。

今回の視察団への党中央本部の御支援、御協力に感謝申し上げますと共に、再度、ヨーロッパ社会主義運動との交流の強化の必要性を訴え、こうした取組みが継承発展するように、是非、具体的な企画の検討をお願いし、意見書とする次等です。

1988年6月2日

日本社会党ヨーロッパ視察団

団長	曾我 祐次	副団長	森下 昭司	同	杉田 哲
団員	小山 誠司	西村 茂樹	川口谷 正	三沢 英一	
	山崎 晋吾	高谷 真理	小岩井 清	大西 光夫	
	岡本 博	町野 覚	清水 健夫	奥野 正美	
	樹杉 和彦	湯川 利孝	浜口 金也		

※ この意見書は、6月2日、党中央本部で曾我団長らが視察報告として、土井委員長に手渡したものです。団員の感想文にもありますが、ヨーロッパの友党との交流を望む声は団全体の偽らざる心境でした。